

平成24年8月28日発行

ゆきつばき通信

第 154 号

大町山岳博物館友の会



行事のご案内

【塩の道を歩くⅩⅡ】

切久保より佐野坂へ（白馬より大町へ・佐野坂越えルート）

「塩の道を歩く」では、日本海をスタートして西回りコースによって北から南へと千国街道を毎年たどっています。今回は白馬村切久保の観音原から飯森を通り、佐野坂までの約13kmのコースを約7時間かけてゆっくりと歩きます。

《期 日》 10月6日（土） ※大雨中止・小雨決行（順延はありません）

《対 象》 会員・一般 25名 ※全行程を歩ける体力のある方

《集 合》 午前7時00分 大町市役所 駐車場

※白馬・小谷方面の方は、午前7時40分までに岩岳スキー場駐車場へ集合してください。

《解 散》 午後5時頃 大町市役所 駐車場

《コ ー ス》 自家用車に乗り合って移動します。

大町市役所集合・出発（自家用車分乗）→岩岳スキー場駐車場（ここから徒歩約13km）→松川→八方口→平川→飯森→飯田→沢渡→佐野→佐野坂スキー場駐車場（自家用車分乗）→ゆーぷる木崎湖（温泉入浴）→大町市役所到着・解散

《講 師》 相澤亮平さん（元大町市文化財センター文化財指導員）

《参 加 費》 会員1,500円（非会員2,500円）

《持 ち 物》 昼食と行動食、飲み物、雨具（レインスーツ、傘等）、手袋、帽子、天候変化に対応できる服装、入浴の支度、必要な方はストック等の各自必要な物

《申し込み》 9月30日（日）までに友の会事務局へ（Tel/Fax0261-23-6334）

※定員になり次第締め切ります。毎年、キャンセル待ちが出る人気の催しです。申し込み後にキャンセルする場合は、早急にご連絡ください。なお、参加者を早めに確定したいため、「〇〇の場合は不参加」といった条件付きでの申し込みはお受けできませんのでご了承ください。

※下見の結果によっては、コースが多少変更になる場合があります。

◎担当幹事 関・中畑

【伝統技術を学ぶ】

「かんじき」を作る

雪上を歩くために昔から使われてきた「かんじき」には、地方によりそれぞれ材質、ツメの形状、針金の縛り方に特徴があるようですが、今回は小谷村の「かんじき(爪かんじき)」作りに挑戦します。

作業は(1)煮沸した約70cmの杵材2本をU字形に曲げて、前後に組み合うように形を整え、長さを揃える(2)前後の杵が重なる部分左右で杵間に挟み込む爪を、杵に密着して固定できるように細工する(3)杵・爪を組み立てて針金でしっかり固定するという内容になります。出来上がったものは各自持ち帰って乾燥し、後日、縄を掛けて完成となります。

スノーシューでの雪原散策も楽しいものですが、“かんじき”は携行しやすく、また、地形や雪の状況によってはより有効性を発揮するとも言われます。自作の“かんじき”を使って、スノーシューで苦労したような場所に踏み込んでみるのも良いですね。なお、この「爪かんじき」は硬雪向きのものであり、軟らかい雪の時は、杵内側に網目状に綱を張った“雪踏み用かんじき”が良いようです。「かんじき」は漢字で「櫓(そり)」又は「櫟(はち=鉢)」等と書くようです。どのような意味でこれらの字を使ったのでしょうか。

《期 日》 10月27日(土) 9:00~15:00 ※基本的に屋外作業になりますが、雨でも屋根下で出来ます。

《定 員》 15名

《集 合》 午前8時00分 大町市役所 駐車場 車に分乗して実施場所へ行きます。帰りは大町市役所帰着16:00くらいになる予定です。

《実施場所》 小谷村 中谷郷おらが里

《講 師》 山本国弥さん(おらが里主人)

《参加費》 会員3,000円

《持ち物》 昼食、飲み物、雨具(傘等) (持っている人は)目の細かい鋸、ペンチ、切り出しナイフ等 ※作業ができる服装で来て下さい。

《申し込み》10月12日(金)までに友の会事務局へ(Tel/Fax0261-23-6334)

◎担当幹事 西澤 塩瀬

【山岳博物館より企画展・行事等のご案内】

スイス政府観光局・市立大町山岳博物館共同企画展/ユングフラウ鉄道全線開通100周年記念

「スイス山岳観光の黄金期と日本人—その魅力と文化を伝えた人々—」

■会 期 ～10月21日（日） 開催中・詳細は前号をご覧ください

※会期中、月曜日、祝日の翌日は休館。ただし、月曜が祝日の場合は開館し、翌日休館。（8月中は無休）

■関連催し

▼ミュージアムトーク

- ・期日 9月23日（日）、10月7日（日）・20日（土）
- ・時間 各日とも 1回目・・・午前10時30分～ 2回目・・・午後2時30分～

▼ゲストトークショー

- ・日時 9月16日（日）午後1時30分～3時15分
- ・会場 山岳博物館 講堂
- ・内容 企画展の関連催しとして、冒険家でアウトドアメーカー「モンベル」代表の辰野勇さんをゲストにお招きし、アルプス登攀の経験や“第二の故郷”というスイスの魅力などについて、たっぷりとお話しいたします。当日は、素敵なモンベルのアウトドアグッズが当たる抽選会も行います。ぜひご参加ください。

キノコ展 無料キノコ鑑定あり

山岳博物館では、自然界でのキノコの役割やキノコを通して見た里地・里山の環境への理解を深めていただくことを目的にキノコ展を開催いたします。

本展では、そのほか大町市や周辺で採れる生のキノコを展示いたしますので、みなさんが採集したキノコを展示用にご提供（無償）ください。キノコ展準備は9月28日（金）午後3時より博物館講堂で行っていますので、ご提供いただける方はお持ちください。また、期間中も随時補充を行っていますので、ご協力をお願いします。

■会 期 9月29日（土）～12月30日（日）

■開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

■会 場 山岳博物館講堂

※ キノコ学習会は開催いたしません。

市立大町山岳博物館・信州大学山岳科学総合研究所共同企画展

山岳（やま）を科学するシリーズ② 小学生におくる企画展

「大地はなぞだらけ-ファッサマグナ・北アルプスおいたちのなぞ-

■会 期 10月27日（土）～12月28日（金）

※会期中、月曜日、祝日の翌日は休館。ただし、月曜が祝日の場合は開館し、翌日休館。

■開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

■会 場 山岳博物館1階ホール・特別展示室

「さんぱく☆ぎやらりーアニマルウォッチング」

■会 期 10月23日（火）～11月9日（金）

※会期中の土曜日・日曜日はお休みです。

■開館時間 午前9時～午後5時15分 ※最終日は午後1時まで

■会 場 大町市役所1階

報 告

【史跡・美術館・博物館めぐり】 軽井沢～植物園と野鳥の森

6月24日 参加者24人(会員23人、一般1人)

有川 美保子

昨年の博物館創立60周年企画展「湿地の植物」では観察活動や館内案内等へ友の会会員も参加する機会を得た。今回の史跡・美術館・博物館めぐりはそのような昨年の経験から企画された。

出発から車中で研修が始まった。更埴ジャンクションから車窓は東信地区、上信越の山に変わる山の説明をし合う。道の駅雷電くるみの里について丸山卓哉さんから、浅間山火山について宮澤会長からそれぞれ説明があり既に勉強会ムードとなる。期待の道の駅で昼食、みやげの買物をした。地産商品の豊富なこと、利用者の優しいトイレに関心をした。再び乗車して目的地に向かう。日曜の軽井沢はラッシュになることを心配していたが、パンの『ASANOYA』に寄ることが出来、昼食の楽しみが増えた。

軽井沢植物園は長野オリンピックカーリング会場と隣接する標高1000mに位置し、町内の山林原野、その他の様々な地域から採取された植物、さらに園芸種など2万坪の中に145科1600種が集められている。

駐車場にバスが到着すると、すでに館長が博物館の入口に待っておられた。一般の入館者の方々と一緒に園内を館長の説明を受けながら観察した。樹木は科別に植栽されていた。個々の個体に科、固有名が付けられ入館者に配慮していた。植物によっては生育地が移動するようで説明板の周りで見当たらない植物がいくつかあった。大正15年に軽井沢で発見されたカルイザワテンナンショウ(軽井沢固有種)が咲いていた。オオマムシグサとの識別方法の説明を受けた。美しいピンクのサンショウバラ(箱根産)、ヤマタバコ、ミヤマウメモドキ、ハナヒョウタンボク等の貴重種の開花に出逢えることが出来た。休日にもかかわらず数名の方が植栽、除草等の作業をしておら



れた。「ボランティアの方の協力もあるが植物の生育に対して管理が追いつかない」と話されていた。実生から発芽、株分けでの植栽、剪定等も見学する事が出来た。2時間がとても短く感じられた。植物園入口のあづまやで道中で購入した美味しい品々で楽しい

昼食となった。

15分早目に植物園を出発。軽井沢星野に野鳥の森がある。星野温泉、村民食堂等がある星野エリアにピッキオビジターセンターがある。温泉前の庭で2班になる。大塚ガイドグループ、井上ガイドグループに別れてガイドを受けた。大町山岳博物館から山の子村までの山道を感じる環境であった。それぞれのガイドは大きなザック、ポケットの沢山付いたズボンにチョッキを着用。中には沢山の物が入っていると見え、ポケットが膨らんでいた。そして手にも大きな資料集に双眼鏡。ビジターセンター周辺から観察会が始まった。ムササビ、カワガラス・・・ガイドの説明にワクワクしながら野鳥の森に分け入った。ここでもアツという間の3時間であった。ビジターセンターでの買い物もそこそこに帰路に着いた。



久しぶりの軽井沢での楽しい1日であった。山博での植物園の管理、自然観察会、館内ガイド等に参考になる内容の史跡・美術館・博物館めぐりでもあった。

大町市役所発=7:30(13人乗車)~松川村道の駅=7:45(7人乗車)~スイス村=8:05(4人乗車) 豊科インター~湯の丸インター~道の駅雷電くるみの里=9:15~30(トイレ・買物)~ASANOYA(パンの買物)~軽井沢植物園=10:10~12:45(植物観察会・昼食)~ピッキオ・小鳥の森=13:10~16:00(観察会・買物等)~姨捨サービスエリア=17:15~17:30(トイレ休憩)~豊科インター=17:45~ 途中スイス村~松川村道の駅停車=大町市役所 18:20着

ピッキオのインタープリター

丸山 卓哉

先日博物館めぐりで訪れた軽井沢野鳥の森を案内いただいたピッキオのインタープリターについて紹介します。まず、インタープリターとは自然解説者ということになりますが、自然と人々をつないで自然の発している言葉を人に通訳するというような意味合いが含まれ、自然に対する知識が豊富なだけでなく企画や演出にも工夫を凝らしそれをいかに参加者に伝えるかというテクニック(心に響く話ができること)も持ち合わせています。

今回ご案内いただいたインタープリターは2名で、お名前とホームページからの自己紹介は次のようになっています。

大塚敏之さん 1班(大町乗車組)担当

虫ばかり見ていたら近眼に。なのにさえずる鳥はしっかり見つける。野鳥の森ではカメラを持った姿に出会えるかも。

井上 基さん 2班(松川・安曇野乗車組)担当

高校理科教師の職を投げ打ち、世界一周の旅をしているうちにピッキオへたどりつ

いた。石の魅力を語るとアツイ。主食：たこ焼き 愛称：隊長

ピッキオはいわゆるエコツーリズムといわれる自然環境体験やそのための基盤整備を行っている団体（NPO法人）で、10名余りのインタープリターがいます。

今回をお願いした「野鳥の森ガイドウォーク」は団体向けメニューで、2時間の予定（少し早く着いたため実際は2時間半ほどご案内いただいた）で国設軽井沢野鳥の森を案内いただくもので、20名に1名を基本にインタープリターが付きます。周遊コースになっているので、各班反対周りで巡りました。今回はおそらく最短2kmほどのコースでした。

インタープリターは中型リュックを背負っています。もちろん全部を見たわけではありませんがいろいろ出てきました。DVDモニター、ルーペ付きケース、小さなホワイトボード、本・カード類 等。DVDモニターでは巣箱に設置されているカメラにつないで中の様子を見ました。気が付くと、コースのところどころ木からコードが下がっていたりします。ルーペ付きケースはサンプル管瓶（フィルム管）のふたが虫眼鏡になっているもので、水棲昆虫など入れて観察できます（最後にビジターセンターで1本買ってしまいました）。小さなホワイトボードはちょっと絵で説明するのに良い。定番ならカード化もできるが、イレギュラーのものでも絵で説明してもらおうと理解しやすい。その絵をさっと描けることも能力のうち。

説明の範囲は動植物から地質まで幅広い。おそらく引き出しはものすごくたくさんあるのだと思います。声も良く届きます。慣れた道でしょうが、アスファルト道は後ろを向いて後退しながらお話をし、話が途切れませんし参加者への安全配慮ができます。

解説に当たっては解説者と参加者の立ち位置に気を付け、光線具合を含めて参加者からの見やすさに気を配っているとのこと。また、鳥の声など高音で聞き取りにくい音やワンチャン的な話は避けるとのこと。植物解説では先に名前を言ってしまうと、その植物の特徴などの周りを固めてから植物名を話すとより印象に残ることなど、解説ボランティアをしている友の会員にも役に立つ手の内も少し紹介していただきました。いずれにしても、ツアーの間、参加者をばらけさせず、退屈させないテクニックはたいしたものでした。

【夏のキャンプ】夜も探検・山の子村キャンプ

7月28～29日 参加者10人と1匹

丸山 優子

お天気もよく、さわやかな風の吹く山の子村で行った。テーマは様々な昆虫のトラップをしかけ、観察すること。初日午後はまず木の上、水の中、土の中にさなぎこ、お酒をいれた特製ペットボトルのトラップをしかけた。滉太君はさすが、他にストックキングにバナナを入れたトラップも家から用意してきた。トラップの引き上げは翌日のはず。しかし滉太君はそこまで待たず、水中のトラップを引き上げると、なんと鮒が入っていた。だがこれは本来の目的と違うのですぐ逃がした。そして一晩放置した。

ライトトラップは15:30に設置した。4本の色の違う蛍光灯を仕掛ける。豪華だ。誰かの提案で「もしかしたら昼間からつけておいても虫が来るかも」というので点灯した。この理由：虫は人間とは違う波長の色が見えるかもしれないので、紫外線に寄

ってくるかも、とのことだ。素晴らしいアイデアだ。けれど暗くなるまで虫は一匹も来なかった。

19:20、いきなり9種類：マメコガネやジョウカイブシ、3種類の蛾、ハエ、コメツキバツタ、コガネ、ツノゼミ。以下詳細は省略するが、20分ごとに見に行くとどんどん増えていき、すぐ100匹、1000匹のオーダーになった。最初は“きれいな蛾”なんて写真



を撮っていたが振り向くと明かりめがけて勢いよくこちらに向かってくる虫が顔にぶつかったりして少し怖かった。薄い色の紫外線が一番早く虫が寄ってきた。次が濃い色の紫外線。白色灯は最後で21時ごろになるとその差はなくなった。“暗闇を照らせ”などネイチャーゲームをやりながら観察をして過ごした。

翌日、さっそくトラップの回収だ。木の上（アルコール入りのエサ）：アリ、ハエ、ガ、ゴミムシダマシ、ムネアカアリ、ザトウムシなど。水中：フナ、オタマ、カエル、水生昆虫はいなかった。土中：ヤスデ、ワラジムシ、エゾカタビラオサムシ、ゴミムシ、ミノムシ、アリ、シデムシ、ハネカクシ、クモ、セスジコガネ、カマドウマ・・・。

最後、ネイチャーゲームのカモフラージュ、動物交差点、自然の紋、目かくしイモムシには大人も子供も楽しんだ。

清水副館長には本当に丁寧な指導をしていただき、たくさんの虫好きの子供たちに来てほしかったなと思った。いつものように、ほかのキャンプとはちょっと違った友の会のキャンプだった。

「こまくさ」ついにダウン！！ 8月末で営業終了

5月の連休ころより今年は厳しいなと感じておりましたが、頼みのお盆も期待は見事に外れ、その上素通りのお客さんも多く、ついに持ちこたえられなくなりました。喫茶では、冷やし甘酒やポテトピザなど好評のものもありましたが、いかんせんお客総数の減少で打ちのめされてしまいました。知恵を絞りきれず申し訳ありません。

8月19日の役員会にて8月31日をもって今年度の営業を終了することに決定されました。喫茶の常連のお客さんには電話で連絡させていただいたところ早速に何人もの方が駆けつけてくださり、ありがたく嬉しく、感謝に堪えません。

友の会の皆さんはじめ、博物館スタッフのみなさん、なにかと助けていただきありがとうございました。来年に期して、長いお休みを山に旅に有意義に過ごしたいと思えます。皆さまもどうかお元気でお過ごしください。

仙波 美代子

ボランティアサークルより

今後の予定です。

9/9 9:30-11:30 湿原植物園の除草・サクラソウポットの植え替え

9/16 13:00- 企画展に伴う「ゲストトークショー」の手伝い

10/14 9:00-10:30 湿原植物園の除草

編集部より 友の会会報「ゆきつばき」原稿募集

例年通り、一般原稿、行事参加の感想文、趣味や研究の成果、山行記、随想等等、山や自然、博物館活動にかかわること（こじつけでも）でしたら、何でもかまいません。会員に向けて、近況などお便り形式でいただいても良いかと思えます。写真やスケッチなどがありましたら添えていただくとありがたく思います。ワープロなどで作成の場合は、テキストデータもいただければ、大変助かります。

原稿の締め切りは12月中頃とします。また、こちらから原稿をお願いすることもあろうかと思いますが、ぜひご協力をお願いします。

takuya-m@juno.ocn.ne.jp（丸山卓哉）宛てお送りいただいてもかまいません。その際、件名に「ゆきつばき 41号原稿」等をお付け下さい。写真等も添付できます。受領確認した場合は返信しますのでご確認ください。

ゆきつばき通信編集部より _____

今回は秋の行事等のご案内になります。山博行事へもどうぞご参加ください。

下記に山博ホームページとそこから入ることのできる友の会ホームページのアドレスをご案内します。事業の報告など、写真もカラーで見ることができます。なお、大町市の管理ページとなりますので、個人のページへのリンクなどは設定できませんのであしからずご了解ください。

前ページにもありますとおり、友の会の喫茶売店こまくさは赤字を拡大させないため予定より2か月早く今シーズンの営業を終了します。去年は「おひさま」効果に助けられましたが、こここのところの来館者の減少、さらに財布のひもの固さにたいへん厳しい状況になってしまいました。

(丸山卓哉)

ゆきつばき通信 第154号

発行／大町山岳博物館友の会 平成24年8月28日

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1

大町山岳博物館内 山博友の会事務局 Tel/Fax 0261-23-6334

会費振替口座番号 00550-2-24194 加入者名 山博友の会

山博ページ <http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/>

友の会ページ <http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/tomodown.htm>